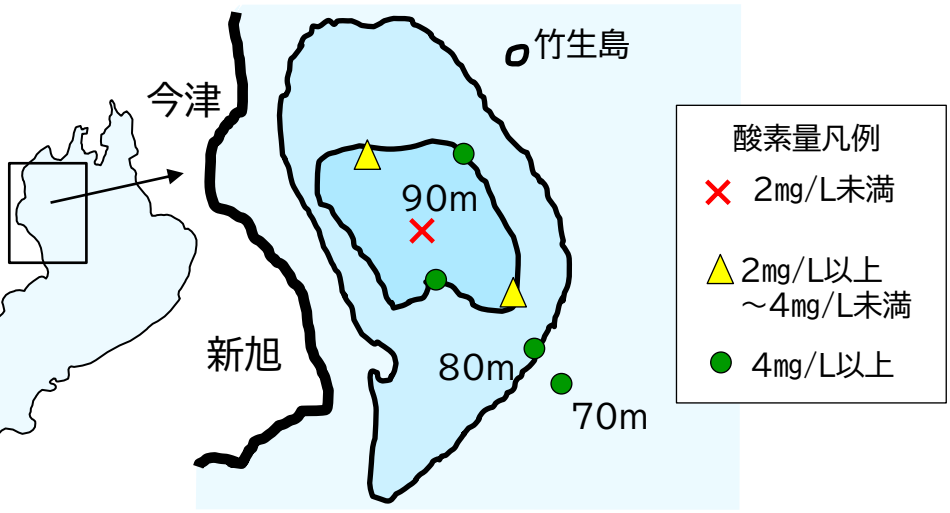
北湖沖合湖底の酸素量とスジエビ等の生息状況

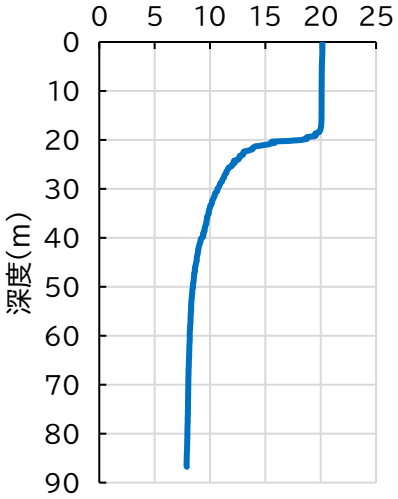
2026年11月16日
滋賀県水産試験場

琵琶湖沖合の底層では、秋から冬にかけて酸素量が低下し、2mg/Lを下回るとスジエビなど魚介類の生存や分布に影響を与えることがあります。
そこで、水産試験場や琵琶湖環境科学研究センターが実施した酸素量やスジエビ等の生息状況に関する調査結果をお伝えしますので、操業の参考にしてください。

○湖底等の酸素量（2026年10月19～29日時点）

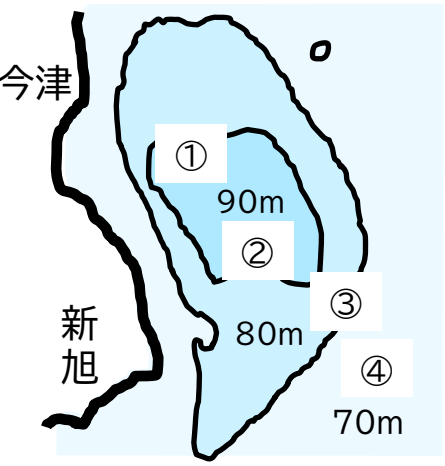


今津沖（90m） 水温（℃）

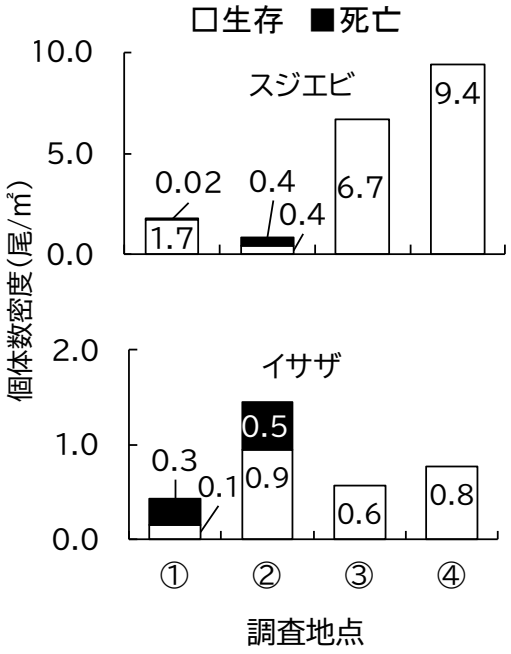


・湖底直上1mの酸素量は水深90mの中心部で2mg/Lを下回りました。
・水深90mの湖底水温は7.9℃でした。

○スジエビ等の生息状況（2026年10月29日時点）



調査地点



・スジエビ
死亡個体は水深90mの2水域で確認されました。

・イサザ
死亡個体は水深90mの2水域で確認されました。